

第2回 夕張市地方人口ビジョン及び地方版総合戦略策定委員会

議 事 概 要

日時：平成27年12月8日（火）18:00～21:00

場所：夕張市市民研修センター2階 大会議室

1 開会

2 一部委員紹介・副委員長指名

3 議事

① 第1回策定委員会議事・アンケート結果・ヒアリング結果の報告

- ・ 第1回策定委員会議事 : 事務局より説明
- ・ アンケート結果 : 株式会社ドーコンより説明
- ・ ヒアリング結果 : 北海道大学 工学部 瀬戸ロゼミナール生より説明

② 清水沢拠点について（北大生によるプレゼンテーション）

北海道大学 工学部 瀬戸ロゼミナール生による、清水沢拠点の配置案についてのプレゼンテーション

（質疑・意見・要望・感想等）

- 非常に素晴らしい提案だと思うが、この計画を実現するとしたら、どの程度の時間が必要になると見込んでいるか？

（北大生回答）

⇒ 具体的な計画として、必要な年数までは想定できていない。本構想においては、まず将来の絵を描き、目標を定めるということを主眼に据えており、目標を定めることで、今後の方向性等を議論の俎上に載せることができると考えている。

③（1）人口ビジョン骨子案について

事務局より説明ののち、意見交換

（質疑・意見・要望・感想等）

なし。

③ (2) 総合戦略骨子案【戦略1】について

事務局より説明ののち、意見交換

(質疑・意見・要望・感想等)

- ぜひ実現してほしいと思う。
- 市内には、小さな子どもを連れた親が集まれる場所がないので、子育て支援センターの建設が望まれる。
- つい先日、介護福祉士の資格を持っていて、夫の扶養の範囲内で働きたいが、現状では一時預かり機能のある施設がないために子どもを預けられず、働くことができないという相談を受けた。自分のところでも少しずつ対応はしているが、一度に多くの子どもを預かれる機能の充実や人材の育成など、課題もあると感じている。
- 子育て支援センターの建築などは、先のことを見据えたプランとしての話だと思うが、子育て支援については、何十年か先を見据えることも当然大切ながら、今いる子どもたちへの支援も重要であると思う。
今も図書コーナーの2階、文化スポーツセンター等にも幼児が遊べるスペースがあるが、料金が高く頻繁には利用できないという声がある。未来に向けた取り組みと同時に、まずは今あるものを活かし、今いる子どもたちの子育て環境を支援していくことも忘れてはならないと思う。

③ (3) 総合戦略骨子案【戦略2】について

事務局より説明ののち、意見交換

(質疑・意見・要望・感想等)

- 2月の映画祭において「黄色いハンカチプロジェクト」という取り組みを実施。市民に黄色いハンカチにメッセージを記入してもらって市内に配置、映画祭を盛り上げるという取り組みであった。
この取り組みに際し、小学生～高校生にも協力を依頼したが、映画を見ていない世代である彼らのうち、中高生には説明の仕方もあるが、小学1年生にも伝わるような説明の仕方というもの意識すると、非常に難しかった。
地域学（郷土愛教育）は非常に大切な取り組みだと思うが、「どのように伝えていくか」ということが課題の一つであると感じている。
- 夕張に住み、また働く若い世代が交流する機会を作りたいという思いから、「すぐりの会」という会を開いているが、集まると夕張が住みにくいであるとか、不便であるという声はあまり聞かないし、自分も感じない（たとえ札幌でも通院に時間を要する部分等はある）。
子育ての話もそうだが、「もっとこうしたら良い」という前向きな話が多いので、そうした想いを起業したい人に伝えられるよう、発信していくことが大事だと思うし、魅力があれば、夕張にも人は来ると思う。

- この【戦略2】では「若い力でつくる」という部分が一番重要だと思う。若い人たちが「自分がこのまちを何とかしていかなければ」と強く思い、アクションプランをともに考えながら行動していくことが大切。委員の皆様はなぜ、この場に「選ばれた」のかを考え自ら行動に移して欲しいと思う。

「夕張新聞」は、3年前に夕張の情報を一元化したいという想いで始めたものだが、当初なかなか上手くいかなかったところに、夕張に戻ってきた若者の力を借り、現在のような形になった。

若い人たちが活躍できる場、「自分たちはこういうことができる」ということをアピールできる場を作ることが、明るく豊かな夕張をつくっていくうえで必要だと考える。

- 廃校利用促進で道内を回っていると、意外と夕張を意識してくれている、という感覚を覚える。合宿の誘致活動で「ぜひ夕張を利用してほしい」と訴えると、多くの方が理解を示してくれる。

発信し行動すれば、必ず結果に繋がると思う。まず「やる」ということが大切。

- 「学官連携によるまちのイメージ再生プロジェクト」の活動事例として、札幌市立大学とNPO炭鉱の記憶推進事業団と手を組み、「空知炭鉱の記憶アートプロジェクト」と題して、地域資源を掘り起こしながら、また地域の方々と交わりながら、学生たちのアートマネジメントを行う事業を実施している。今年石炭の歴史村を拠点に2ヵ月ほど実施し、地元の方や札幌圏の方など、1100人程度の来訪があった。

夕張市民の中には、石炭産業とともに盛衰してきた夕張の歴史が、ある意味で特殊なものであるという認識があまりない。そこに市外の方々の視点からどのようなところに特徴があり、どこが大事であるかという示唆を得、地域資源として伝えていくことを課題としている。

施設の面でいえば、2011年には清水沢の旧火力発電所を使用した。市外の方はもちろん、地元の方も普段行かないような場所を活用し、光を当てることで、地域が持つ魅力を再発見するきっかけという意味合いも持っている。

また、学生が地元の方と話をしたり、一緒にご飯を食べたりすることで、年配の方も「自分たちにはまだできることがある」という思い、「伝えたい」という思いが生まれ、まちで学生や若い方を見つけると、自分たちから話しかけるといった状況が生まれている。

こうした活動が続くことにより、雰囲気明るくなった地域が確かにあり、地道ではあるが確かな成果が見えてきている。

「再生」という言葉は曖昧だが、施設にせよ心持ちにせよ、地元の方々が地域の秘めた資源に「気づく」ことがきっかけになる、という意味で価値ある取組みだと認識しており、今後も引き続き実施していきたいと考えている。

- 夕張が取り組むべき課題は点々と存在しているが、その点をどうやって繋ぎ、線にしていくかということが大切。

たとえば「スポーツする所があるから来てください」というだけでなく、「ご飯を食べる所がある」「泊まる所がある」「観光する所がある」といった各分野について、それぞれに自分たちの分野を持ちながら、互いに連携していくことで夕張としての魅力が生きてくるし、同時に連携しているという情報を発信し、広く伝えていくことが重要であると考えている。

③（４）総合戦略骨子案【戦略３】について

事務局より説明ののち、意見交換

(質疑・意見・要望・感想等)

- CBM についての話があったが、研究について現状どの程度まで進行しているのか。

(事務局回答)

⇒ CBM の採掘とは、石炭層に穴を掘り、ガスをどれだけ抜けるかという取り組み。夕張の石炭層にはガスを含む量が多く見込まれているが、一方で出てきたガスをどう運ぶかという問題と、どれだけ街で使用できるかという問題があるがあるので、なるべく街に近いところで実施したいということで調整している。

現在は、夕張市内での試掘について意欲的な民間事業者が、国の定めに従って権利を設定しているところ。難しい問題であるが、権利を取得した事業者と市がどのように連携していくことができるか、ということも検討している。また積極的に連携していくためにも、市が前向きな姿勢を示すべきであるという認識のもと、そうした機運を高めるべく調整している。

現時点において日本国内での実施例がないということもあり、エネルギーを産業にするという取り組みは時間を要すると思われるが、まずはどのくらい出るのか、ということを目に見える形にすることが大切であると考えており、できるだけ早期に実現すべく、関係各所と日々調整を行っているところである。

(委員回答)

→ 北大生の皆さんからのプレゼンテーションにもあったが、この取り組みは夕張市民として非常に興味深く、夕張の活性化という観点からも一つの目玉になり得ると思う。

とはいえ、将来の人口減少傾向が見えている中で、施設を作ったから即人口が増えるというわけではないと思われるので、迅速な対応が必要であると思う。

- 子育てする女性に対する支援内容について、アンケートからニーズを読み取った話であると思うが、「子育てをするのは女性」「仕事をして、帰ってきたら家事をするのは女性」という印象を持った。女性だけでなく、男性も子育てをしながら輝ける環境づくりが必要だと思う。

(事務局回答)

⇒ できれば、父親が何をしなければならないか、ということや、女性の目線からすると男性がこうすれば女性はもっと働きやすくなるのでは、といった具体的な御提言もあれば、あわせてお願いしたい。

(委員回答)

→ 職業によってそれぞれ状況も違うと思うが、父親も少し早く帰るなどしてもらえれば。

③ (5) 総合戦略骨子案【戦略4】について

事務局より説明ののち、意見交換

(質疑・意見・要望・感想等)

- 夕張高校では「夕張の未来を語れる人材の育成」として、現在、市の夕張高校魅力化ワーキンググループとともに検討しており、まずは来年度から始められる取り組みとして、資格取得を目指し挑戦する生徒たちへの支援等の検討を行っている。

また、夕張高校に限らず、これからの教育は何か知識を獲得するというだけでなく、高齢化であるとか地球温暖化であるとか、今の我々世代が生活してきたツケとでもいべき、「答えのない課題にどう取り組むか」ということが必要となってきた。

高校生も社会に参画するという意識を持たなければならないという考えから、今回、夕張高校においても北大生によるプレゼンテーションを行ってもらい、これから子育て世帯となる高校3年生に、雇用の創出と若者の定住について考え、それぞれに答えを出してくるという課題を与えている。

「地域を活性化するためのキャリア教育」が重視される昨今、これからは基礎的な知識・学力を小学校・中学校で身に付け、それを活用して高校では社会をどう考えていくか、という教育がこれからの高校に求められている。

夕張高校においても、「夕張高校生が夕張をどのように考えていくか」と教育を実現していくため、資金面も含めた支援について、市とも協議していきたい。

③ (6) 総合戦略骨子案【戦略5】について

・事務局より説明ののち、意見交換

(質疑・意見・要望・感想等)

- プレゼンテーションの内容にも繋がるが、持続可能なまちづくりを行っていくうえで、根本として大切なことは、まちづくりを行う人を育てることであると考えている。
行政が施設の案など提案していく際に、住民がどう考えるのか、ということをもとめていく、まちを考える人材の育成が大切であり、これは【戦略4】の「夕張の未来を語る人材の育成」とも重なる。
- 「安心の地域医療体制の構築」について、具体的に考えている案などはあるか。

(事務局)

⇒ 今後の地域医療について考える検討会において、将来の医療に感手の様々な要望があり、高齢者のためにこうした診療科目がほしいという意見が多い一方、小さな声かもしれないが小児科や急病に際しての一時保育についての要望もあった。
診療所をつくるということではなく、今ある医療資源の中で、地域に居る人材・ある機能で連携してどうできるか、といった内容を吟味する必要があると認識している。
あわせて、夕張で担える医療がどこまでの範囲かということを明らかにし、それ以外には市外の医療機関と連携しながら、次の世代に残す機能・体制の構築を図りたいと考えている。

④ 総合戦略の「コンセプト」について

事務局より説明、期日までに総合戦略の「コンセプト」案の提出を依頼

4 閉会